

## ＜音楽＞改善のポイント

### (1) 現状の分析

多くの児童が歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞など様々な活動に意欲をもって取り組んでいる。

児童同士で音を合わせて演奏することを好み、すすんで声を掛け合いながら協働的に取り組むことができる。

知識・技能面では、表現の得手・不得手や、読譜の力に個人差がある。

思考・判断・表現では、知識や技能を生かしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと、感じたことや気付いたことを言葉で表現する語彙の乏しさに課題がみられる。

### (2) 課題

1	リズム譜や、単音での階名は読み取れるが、大きな旋律のまとまりでの読譜に課題がある。
2	歌唱や器楽等で音楽を表現するための技能や、感じたことや気付いたことを言葉で表現する力に個人差がある。
3	どのような工夫をして演奏するかについて思いや意図をもって表現することに個人差がある。

### (3) 授業に取り入れたい改善策

1	常時活動で読譜の活動を取り入れ、くり返し練習することで、読譜力を伸ばしていく。
2	一人一人のつまずきや課題に対して、具体的な声かけや解決策を提示し、個別指導を丁寧に行う。
3	思ったことを表現するための語彙を増やすため、友達との考えを共有する場を適宜設定したり、形容詞表等を取り入れたりする。どのように表現したいか、思考するための発問や、展開を工夫する。

R	5	観 点		
学 年		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なリズム譜を理解してリズム打ちできるようになった。</li> <li>・曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことができてきたが、歌う技能に必要な音程感や、発声に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取ってどのように表現するかについて思いをもてる児童が多く、発言が活発に出る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や音に合わせた身体表現、リズム打ち、器楽など様々な活動に楽しんで取り組むことができる。</li> </ul>
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱をよく聴いて音程やリズム等に気を付けながら繰り返し模唱したり、階名唱を適宜取り入れたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の気分を感じ取ったことを基に、色々な表現の仕方を体験するようにして、思いを膨らめたり明確にしたりする過程を多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な音楽活動を、児童の実態に合った手立てを講じることで、興味・関心をもたせ、音楽を楽しく学ぶ素地を養う。</li> </ul>
2	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤ハーモニカや打楽器の演奏では拍の流れやリズムを感じて演奏することができるようになってきたが、個人差がある。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの演奏が難しい児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように工夫して表現するか、自分の思いをもち、表現することに、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や器楽、鑑賞など、どのような活動にも関心をもち、楽しく取り組める児童が多い。</li> <li>・大きな音が苦手な児童や、音楽遊びに参加できない児童もいる。</li> </ul>
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム唱をしたり体や楽器によるリズム打ちをしたりして、リズム感を身に付けるようにする。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの個別指導を丁寧に行う。また、児童同士の教え合いの時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いて感じ取ったことを伝え合ったり、体の動きを伴った活動を工夫して試したりすることを繰り返し取り入れたりして、実感できるようにする。また、工夫して表現することの楽しさを感じられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの課題で、達成感を味わわせ、向上心を育てられるように、個別支援を細やかに行う。</li> </ul>
3	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように歌うかについて思いや意図をもつことや思いや意図を言葉で表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に友達と一緒に、音を合わせて楽器を演奏することに進んで取り組むこと</li> </ul>

		<p>に気を付けて、自然で無理のない呼吸で歌う技能に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの学習では、適度な息遣いは概ね定着しているが、タンギングにおいて課題がある。</li> </ul>	<p>ための語彙の少なさに課題がある。</p>	<p>ができる。</p>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に合った課題を把握し、学習状況に適した指導をする。また、友達同士の教え合いの活動を取り入れたり、互いに聴き合ったりする中で、よいところを真似させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴き取る際の視点を明確にする。感じたことを表すための言葉の形容詞表を活用したり、思いを友達に伝える時間を多く設定したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に応じた学習形態を工夫し、取り入れることで、友達と合わせる喜びや達成感を味わわせる。</li> </ul>
4	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱において、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うことができてきた。</li> <li>・大きな旋律のまとまりでの読譜に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱表現においてどのように歌うかについて思いや意図をもつことに個人差が見られることや、思いや意図を言葉で表現するための語彙の少なさに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や鑑賞など、友達と関わり合いながら、どの学習にも進んで取り組むことができる。</li> </ul>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習やグループ学習を取り入れることで、技能の向上を図る。</li> <li>・階名読みやリズム打ち等楽譜を読みながら行う学習を繰り返し取り入れ、読譜の機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴き取る際の視点を明確にする。感じたことを表すための言葉の形容詞表を活用したり、思いを友達に伝える時間を多く設定したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や鑑賞の活動を上手く関連付けて取り入れ、友達と協働して活動することで、より楽しさを感じ、深い学びになるようにする。</li> </ul>
5	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽では旋律楽器や打楽器の音の特徴を生かして演奏することができる。</li> <li>・歌唱では、発声に気を付けたり、声の重なりを感じながら歌ったりすることができるようになってきたが、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽づくりでは、即興的に音をつなげたり組み合わせたりする学習に様々な発想を生かして取り組むことができる。</li> <li>・歌唱表現において、曲の特徴や曲想を感じながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつことに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や器楽、音楽づくり、鑑賞など、様々な活動の中で進んで友達と関わり合い、教え合ったり、考えを伝え合ったりしながら主体的・協働的に取り組むことができる。</li> </ul>

	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が歌い方を試す過程を大切にしながら、曲想に合った歌い方を主体的に探って活用していけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の特徴について理解を深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら、表現方法や、声や強弱などの違いによる表現方法を様々に試すなどして、表現を工夫する楽しさを味わい、思いや意図を膨らませるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の演奏に対して、良さやアドバイスを伝え合う活動を多く取り入れ、向上心をもてるようにし、更に音楽表現への意欲を高められるようにする。</li> </ul>
6	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽では各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、自分の音を全体の中で調和させて演奏することができる。</li> <li>・歌唱では、発声に気を付けたり、声の重なりを感じながら歌ったりすることに、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱表現において、曲の特徴や曲想を感じながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつことに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動の中でも、器楽の学習において友達と音を合わせて演奏することへの意欲が高く、主体的に取り組むことができる。</li> </ul>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が歌い方を試す過程を大切にしながら、曲想に合った歌い方を探って活用できるようにする。</li> <li>・基礎的な技能を活用して、思いや意図に合った表現ができるよう、個別で声掛けを丁寧にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の特徴について理解を深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら、表現方法や、声や強弱などの違いによる表現方法を様々に試すなどして、表現を工夫する楽しさを味わい、思いや意図を膨らませるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や鑑賞等の活動を上手く関連付けて取り入れ、友達と協働して活動することで、より充実感を感じ、深い学びになるようにする。</li> </ul>